



場所: 滋賀県近江八幡運動公園体育館
期日: 2025年3月2日(日)

(公社)日本綱引連盟
企画広報委員長 横庭 星治

今年の全日本綱引選手権大会は、初めて関東圏から離れて、関西ブロック滋賀県近江八幡市で開催された。会場は市の郊外にある、近江八幡運動公園体育館で行われた。今までの東京駒沢体育館と比べると、アリーナは狭くチャリナー数も少ない体育館で会った。初めての会場のため、スタッフも前々日から準備に取りかかった。いつもよりスタッフが少なかったため、地元の人から応援を頂きたい。今年22チームで、今年も特別予選会を開催せずエントリリーチームが全て本戦に出場となった。江畑副会長の開会宣言の後、石井会長の挨拶、そして滋賀県の三日月知事の歓迎の祝辞で、琵琶湖を始め滋賀県の観光を楽しんで貰うよう挨拶のあと、近江八幡市の小西市長から、今年の国民スポーツ大会公開競技綱引会場が近江八幡市とのこともあり選手、関係者の参加を期待している旨の挨拶であった。

開会式で20年連続出場のマドラーズ大阪、緒方チャッターズの表彰がなされた。また競技役員として永年大会に協力した栗原房子氏、小倉良氏、武内昭氏に特別表彰がなされた。永年の大会運営および連盟の運営協力に對し頭の下がる思いである。



スロープ・ジャンプ・ジャンプ・ジャンプ
この大会はスロープ・ジャンプ・ジャンプ・ジャンプ
ジャンプ・ジャンプ・ジャンプ・ジャンプ



女子の部 (500kg)

優勝	マドラーズ大阪	大阪府(推薦)
準優勝	ファンキークーガーズ	福井県(推薦)
3位	緒方チャッターズ	大分県(推薦)
3位	LR石川	石川県(推薦)

男子の部 (600kg)

優勝	神戸消防	兵庫県
準優勝	網鬼志	福井県(推薦)
3位	田代ふさと	秋田県
3位	京都消防るぶすたあ	京都府

神戸消防

男子の部 優勝



創部36年。当時の先輩方が、消防署単位で娯楽目的で始めた綱引き。県内の大会に出場するも、惨敗した事で猛者達の闘志に火が着き、神戸消防全体で強いチーム、勝てるチームとの強い思いから結成された神戸消防の前身、ファイアーレスキュー神戸。

結成の2年後には、兵庫県綱引選手権を制し、初の全日本選手権へ出場するも、残念ながら予選敗退。翌年も全日本出場を果たし、決勝トーナメントにまで進みますが、その1回戦、同業で、当時最強の金沢レスキュー隊に完全に力負け。その後は、巻き返しを図るも、相次ぐ主力選手の離脱や、後に起こる阪神淡路大震災で、部は壊滅状態となってしまいました。長い低迷期を経て、何とか全日本選手権に出場出来るところまでチームは復活し、今年こそはと、覚悟を決め、仕上げにかかっていったところに、コロナ流行。軒並み大会が中止となる中でも、我々は、消防士という特殊な職種、環境の中で、寝食を共にする仲間だからこそ生まれた強い絆(紐)、培ってきた強固なチームワークで、これらの難局を何とか乗り越え、コロナ明けの全日本で3位。昨年も3位。そして、機は熟した今年、全日本綱引選手権優勝という最高の形で結果を残せた事、大変嬉しく思っています。

我々、とにかく練習しました。考えました。格上のBIWAKO同志さんや京都消防ロボスターさんの方々に、胸を借り、引きずり回されながらも、いつかは必ず...という思いで努力し続けた事が、集大成の大会でようやく実を結んだものと思っています。今年は、試合はもちろん、チーム内での日々の練習

マドラーズ大阪

女子の部 優勝

マドラーズ大阪は、今年で全国大会20年連続出場することができました。これも長い競技生活の中でお世話になった諸チームの皆様のおかげです。この場をお借りして感謝申し上げます。

このチームはもともと大阪の2チームが合併してできたチームで、監督、キャプテンなどの役割は設けず、選手が運営しているチームです。結成当時は、背が高く体重もある選手が多く、人数も12人と恵まれていたので、試合に出るメンバー選びに苦労しました。

徐々にメンバーメンバーが揃えがあり、人数が足りず全日本出場が危ぶまれる時期もありました。必死にメンバーを増やし、人数不足の危機も乗り越え、今のメンバーになりました。

今のメンバーになってからは軽量チームになり、ブレイスタイトルもガラリと変えました。当初の初めから踏んで行くスタイルから、スタート以降無理に踏まない、ホールドするス

習でも、内容は一変。一本一本、勝ちにこだわり、自分達の今まで乗り越えてきた苦難、経験も踏まえ、決して諦めず、引き続きける事、それらが次第にチームに根付き、個々も最後まで、戦う姿勢を貫けるようになった事が勝てた事の最大の要因と感じています。

この経験は、綱引きだけではなく、これからの人生に於いても非常に大きな財産になるとも感じており、この本当に素晴らしい競技綱引きを、如何に後世に伝えていくかが、我々の今後の課題であるとも考えてます。

国内に於いて、小学生では、全日本ジュニアをはじめ、盛んに大会等も行われてはいますが、中学以降、高校、大学と大会、競技は殆ど(全く)ありません。部活動としても無く(?)、この事が競技人口の減少に直結していると思われまます。この素晴らしい競技綱引きを絶やさない為にも、組織として、中体連や高体連に働きかけていただく事を切に願ひ、我々選手側も裾野を広げる事に努めていく事が、今後の綱引きの発展に繋がっていくものと思っています。



タイトルにしました。また、アンカーと7番の距離を極端に短くしたり、プレーの選手間の距離を縮めたり、水平ラインにも挑戦しました。マドラーズは、強くなるためにどんな新しいことに挑戦できるチームです。

今年大会でも、みんなで力を合わせて練習、挑戦してきたことを活かすことができました。来年の大会に向けて、これからも様々なことに挑戦していき、パワーアップしたマドラーズをお見せしたいです。